

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490700079		
法人名	株式会社 千怒の杜		
事業所名	グループホーム千怒の杜 (かえで)		
所在地	大分県津久見市千怒7389		
自己評価作成日	平成29年11月24日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・施設周辺の環境が良いことで散歩へ行く機会が多く、季節感を感じる事ができている。 また、できるかぎり利用者の希望に添えられる様に、ドライブや買い物などの外出を行うことで気分転換を図り楽しめる様にも取り組んでいる。</p> <p>・医療面において、かかりつけ医との連携が密に取れている事で、緊急時にもすぐに対応ができ、利用者・ご家族ともに安心して過ごすことができている。 また、終末期においても家族・かかりつけ医・職員で協力して取り組む事ができている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・毎日近所の散歩をすることが当たり前と思っており、車椅子の方も外へ出かけている。地域の方も馴染みの関係性が出来、小学校とも交流がなされている。 ・母体が医療機関ということもあり、毎日詳細についての連絡を取り合い、重度化や終末期における訪問看護も利用しながら安心して看取りを行っている。 ・職員間の信頼関係が強く、共に学び合い、ケアに反映している。重度者が多くても、日々その人らしく生きられるよう尊厳を持った支援をしている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関の見える場所に掲示しており、特にターミナルケアについては、職員間で協力しながら終の棲家となる様にできている。また、理念とは別に『職員の心得』を朝礼時に読み合わせ、実践している。	理念と職員心得があり、朝礼時に読み合わせ職員間で共有すると共に、ケアへ活かそうとしている。終の棲家となれるよう職員間で協力合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	朝の散歩にて近所の方との交流があり、年1回のバーベキューに地域の方を招いている。また近所の方の庭の園芸を見せて頂くなどの交流もあり、地域の小学校の行事に参加し交流が継続して実施できている。	小学校とのつながりが出来、マラソン大会での応援やオリエンテーリングの立ち寄り場所となり交流している。近所も毎日の散歩で知り合いとなり、災害発生時も支えてもらえる関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや施設見学などの希望があればすぐに対応ができるようにしている。また認知症対応の施設という事もあり、災害時には福祉避難所として受入れの準備も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた内容を職員間で検討している。また参加職員が全体会議の場での報告や、掲示をして確認をできる様にもしている。	施設長を中心として、自治会長・民生児童委員・市役所などの参加で、定期的開催し、状況報告や事故報告などの話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者も出席していただいている。また、行政主催の会議にも出席をしている。その他に災害時の福祉避難所にもなっていて、協力関係が強くなっている。	市役所に各事業所宛のボックスがあり、市からの新聞やチラシ、文書などが入っており情報を共有し、市主催の勉強会に参加している。包括支援センターの会議や市民病院の研修会にも出席して協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の場で勉強会を開き、業務中も身体拘束に繋がらないのかを確認や声をかけ合っている。また、『センサー使用』などでも、必要時には家族へ説明して同意書をいただいている。その他では夜間帯以外の玄関の施錠で対応している。	本人の思いの把握を大切に、鍵をかけずに見守るケアを心がけている。身体拘束についての学習会を年1回開き、スリーロックをしないよう心掛けている。鍵をかけるのではなく、行動の理由を知り、支援に反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、全体会議の場で勉強会を開き、業務中でも利用者への対応・言動に少しでも疑問があれば、その場で確認や声をかけ合っている。また、入浴や更衣介助時にも観察する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は全体会議の場で勉強会を開催して、職員全員が理解できる様に実施しているが、今後も継続して学ぶ必要があると思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を一緒に読み合わせを行い確認をしている。また、事前に医療やターミナルなどについても確認をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には管理者や職員が会話をする機会が多い事で意見も頂きやすく、遠方の方とは定期的に手紙・電話・メールなどで情報提供をおこない、運営に反映できていると思う。また、意見箱も玄関に設置している。	家族が面会に来やすい雰囲気や意見の出しやすい工夫をしている。職員は毎月の状況を個別に記載して家族へ送付、ケースによってはメールでこまめなやり取りで、情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の場を設けており、職員全員で検討して反映している。また、勤務中でもいつでも話し合える環境となっているため、検討して反映できている。	毎月の定例会で職員が意見を出し合い、業務改善の必要性に応じ、休憩時間の変更等積極的に取り入れている。職員間の関係も良好で、思ったことを直ぐに話せている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と気軽に話し合える環境があり、一人ひとりに合った仕事を任せる事や諸事情を考慮した労働環境にも努めている。また資格取得に対するサポートもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での勉強会を開催してトレーニングを行っている。また、職員の能力や年数を把握しながら、実践者研修などに参加し、県・市や他施設からの研修の知らせがある時には、掲示して呼びかけて参加もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議や介護支援専門員連絡協議会などに担当職員が参加している事もあり、交流が深く良い関係が築けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、または家族より事前に医療や生活歴を確認しており、直接話を聞く事で関係づくりに努めている。また、紹介者などがいればその方にも事前に確認をして、情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より事前に医療や生活歴を確認しており、直接話を聞く事で関係づくりに努めている。また、紹介者などがいればその方にも事前に確認をして情報を得ている。 必要な情報がある時には、緊急時に合わせて、その都度連絡を得る様にもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の相談の段階から、できる限りの情報を収集して、導入の段階で再度確認を行っている。 またその他のサービスや地域資源の活用、お試しでの入居なども行い、家族の方の負担軽減にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会議の場や勤務中に、利用者のできる事を確認しながら、洗濯物や食器洗いなどを一緒に行っている。 また、利用者と一緒に世間話をしながらお茶をする事で、人生の先輩でもある利用者より教わる事も多く、共に生活ができる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族へ日々の様子をお知らせしており、家族によってはメールでの近況報告も行っている。 面会時には必ず家族とも話す機会を作り、情報を提供を行ない、イベント等の参加や病院受診などにも協力をして頂き、共に支えていく機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容・美容室やお店にできる限り行ける様にしている。また、買い物等の外出をする機会を増やしている事で、知人にも会えて、関係が途切れない様に努めている。 面会時には制限なく、いつでも面会ができるようにもしている。	駅前の利用店に出掛け、近所の方々も集まり、ゆっくりと馴染みの皆さんと楽しんだり、昔馴染みの商店へ買い物に出掛けるなどの支援をしている。面会には家族も頻繁に来られ、近所の方も立ち寄り馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況で職員も間に入り、一緒に洗濯物たたみ等を行なう事で関わりが持てる様にしている。 また行臥床時間が増えた方でも和室などにベッドを設置することで、できる限り部屋での時間を減らして、過ごせる様にもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	イベントの連絡などを行ない、関係継続に努めているが、参加される事はない。 相談については、妻のサービス利用の終了後に家族より夫のサービス開始の依頼などもあり、相談できる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員で常日頃から、やりたい事や思いなどを本人から聞き出し、会議の場で検討している。また日中の過ごし方や外出(ドライブや買い物)等の支援を行ないながら、必要時には家族にも協力をして頂いている。	プラン見直しごとにフェイスシートも見直して書き換え、入居時には生活歴調査書を家族に書いてもらいその人らしさの把握をしている。状態による思いの変化や、新たな情報も書き込み、随時気持ちを知らうと働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族より事前に確認を行っているが、日常生活の場でも利用者本人との会話の中からも聞き出している。また、家族の面会時にも話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に日誌・申し送りノートなどで確認をし、バイタル・排泄・食事摂取量なども確認をしている。また、日常生活の場で確認をしながら、利用者の気になる事なども月1回の全体会議の場で共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に話を聞く機会を作り、月1回の全体会議を開催して職員全員で検討し、作成をしている。 またかかりつけ医からも情報提供をして頂き、参考にしている。	家族の思いや本人の思いを取り入れた計画で、3か月ごとに変更。職員も意見や本人の思いを代弁しつつ、具体的に支援出来る計画となっている。遠隔地のご家族へはメールで連絡して支援に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日誌や個人記録などに記載している。また、申し送りノートに気づき等を記載して情報を共有して活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの外出や外泊の希望等があればいつでも対応しており、その他の事もできる限り対応できる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館や美容室の方に来設してもらいカットをしてもらっている。 また地域の方に依頼して来設での踊りの披露や、必要な方には訪問マッサージも利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限りサービス開始前からのかかりつけ医に診てもらい、月2回の往診をしてもらっていて、必要時には受診も行っている。 また、往診前には事前に情報提供書を送っている。	馴染みのかかりつけ医を継続受診しており、情報提供書を事前に事業所から送付して、医師からは診療内容や医療支援計画書が送られ、プランに活かしている。また、訪問看護や往診も活用して切れ目のない安心した医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診前には情報提供書を作成して送っている。また、母体である病院へ毎日前日の様子を伝え、医療連携をとっている看護師が週に1回利用者の健康状態の確認や、職員とも確認をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前には情報提供をしており、入院中にも看護師などに確認を行い、病院側と連携がとれている。また、退院に向けての連絡調整も円滑に行えるように、必要時には管理者等が病院への訪問も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居する際に、家族から事前確認書をいただき、身体状態に応じて、再度、確認をしている。 また、終末期に向けて、家族との確認後にはかかりつけ医へ報告して、病院・家族・職員全体で取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について話し合い、確認書を整備している。状態の変化により再度話し合い、本人やご家族の思いに沿った支援をしている。職員研修で学習をして、医師の往診や訪問看護など医療連携もなされ、本人や職員も穏やかに過ごせる仕組みが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員がすぐに分かる場所に置いており、また、全体会議での勉強会の議題となる事もあり訓練はしているが、応急手当の実践があまり無いことから、今後も勉強会を継続していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練と風水害避難訓練を夜間に想定して年に1回ずつ行ない、消防署への通報訓練や訓練後に検討・反省会等を行なっている。 また、できる限り利用者にも参加してもらい、地区の訓練にも参加している。	今回の水害避難誘導や断水、地域との繋がりを経験に多くを学んでいる。地域での災害避難訓練も実施して、火災についての夜間想定訓練や災害時の備蓄も整備されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに等に気をつけながら、排泄パターンを確認して誘導を行ない、部屋での更衣の際は必ずカーテンを閉め、排泄の失敗も他者に知られない様な、声かけなどを行っている。 また、常日頃から、気になる声かけや対応があればその都度注意し合い確認をしている。	職員は一人ひとりのプライバシーを大切に考え、尊厳を持った接し方に心掛けている。言葉遣いや支援対応の中でも、人としての思いやりを重視している。排泄の失敗や着がえ等実践に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出の場所や飲みたい物など、いろいろな事で職員のみが決定するのではなく、まずは利用者に見つけてから、二者択一など簡単に選択できるようにも働きかけている。また、時間を気にせずに行える限り、自己決定ができるようにも促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間、散歩や体操等は基本時間が決まっているが、買い物や散髪、ドライブなど利用者からの希望をできる限りそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時には整髪や衣服の乱れ等に気を付け、女性利用者には化粧や肌のお手入れ、男性利用者にはヒゲ剃りなどに気を付けながら支援している。 また自ら選ぶ事が難しい利用者には、二者択一で選んでもらう等も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗いなど、一人ひとりでできる事を把握して、その時の状況によって、できるかぎり一緒に行える様にしている。 また、利用者の嗜好にできる限り合わせて個別でメニューの変更も行っている。	献立は栄養士が作成、厨房は隣接地に建てられ、温かい食事が食べられる。重度化したためか外食が出来なく、食事介助で皆で楽しく会話をしながらの食事ではなかった。好きな物はおやつで食べるよう工夫している。	利用者の食べたい物、好きな物を献立に入れ、食事介助や見守りをしながらの楽しい家庭的な食事が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量を記録しているが、特に必要な利用者には、水分摂取量なども記録している。また、体重の増減や、体調・嚥下の状態に合わせて食事形態や食事量に気を付けていて、食欲低下等にはかかりつけ医へ相談して対応してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる限り自力で行なえる様に声かけや介助をしている。また就寝前に義歯の洗浄の声かけや介助も行っている。その他にも必要な方にはジェルやスプレーなどで口腔内の保湿などにも気をつけている。		

事業者名:グループホーム千怒の杜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日記録をしていて、毎月の全体会議の場で、排泄パターン・行動、誘導時間などの確認や汚染が増えている方への対応を検討している。また、できる限りPWCへ移乗して排便ができる様にも心がけている。	重度化してオムツ対応となった方も、ポータブルトイレを活用して自立支援をしている。パターンを把握し、トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食で毎日、牛乳とバナナを提供していて、その他にもヤクルトやヨーグルトなどもおやつで提供している。また、水分摂取の促し等も行っている。毎日排便の有無を確認して必要時には服薬や坐薬を使用して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は毎日、午後から入浴ができる様に準備をしているが、その時の状況で午前中でもできるように、できる限り一人ひとりの希望に添えるようにしている。また、入浴を断られる事の多い方でも清拭などに変更して対応している。	希望すれば毎日入浴できるよう沸かして用意している。最低でも週2回以上入浴するよう支援をし、体調不良時は清拭にて清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った電気の明るさや室温等を本人や職員間で確認しながら支援している。日中は部屋だけではなく、リビングや和室でも休息が取れる様に、また全員が同じ時間に就寝するのではなく個人の希望の時間に合わせている。必要な利用者には服薬の管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテや薬一覧などを職員がすぐわかる様にしている。また、変更や追加があれば、理由や期日なども日誌や申し送りノート等に記載して、職員全員に伝えている。その他にも間違えがない様に、声出し確認等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り散歩へは行く様にしており、外出の好きな利用者と一緒にドライブへ出かけたり、カラオケをする等して楽しみ事を増やして気分転換を図っている。また、個人に合わせてできる役割・日課(洗濯物たたみや新聞折り等)もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの理容・美容室や買い物の希望があればその都度行けるようにしている。また散歩はできる限り毎日行く様になっている。その他では外出のできる利用者と一緒にドライブは行き、特に桜やアジサイなど花の見ごろな時期には、行く機会を増やしている。	毎日近隣周辺を散歩、利用者同士で「今日はまだ散歩していないから、後でしようね」と外に出かけることが当たり前の生活である。中庭でも季節に触れ、ドライブでも四季折々の風景に触れている。地域も外出する事を受け入れている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人や家族より預かり金を金庫に保管しており、本人からの依頼や必要な物を購入できるようにしている。またドライブなど外出時にも使っている。 自己管理ができる方には、一緒に買い物に行く等して支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があればいつでも電話をかけることができるようにしている。 手紙は書けない方が多い為に、届いた時には職員が読み、また同封の写真等があればお部屋の見える場所に置くなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間帯によってカーテンで明るさを調整しており、廊下にはイベント時の写真の飾り、その他にも花や折り紙の飾り物などを飾る事で季節感も分かる様にしている。 リビングではその時の状況でベッド設置やソファの移動など模様替えも行っている。	太陽が差し込みひなたぼっこのできる場所でゆったりと外の四季の移り変わりを感じる事が出来る。手作りの飾りや思い出の写真を飾って空間のポイントになっている。広い空間であるがL時になって狭い場所も作っている。畳の部屋では長く寝た状態の方が過ごせるようベッド対応もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではテーブル席とソファ席とがあり、気の合った者同士で過ごす事ができるようにしている。また、和室が隣にありベッドを設置している事から他者と離れてゆっくりと過ごす事や休む事もできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り、自宅で使っていた家具や布団などを持って来てもらうようにしており、足りない物は本人や家族と相談して購入している。 使いやすさや転倒防止のための動線の工夫を行ない、写真や花等を飾れる様にしている。	家族と話し合いながら過ごしやすい空間となっている。馴染みのタンスや椅子・縫いぐるみ・位牌など持込み、その人らしく暮らせる居場所が作られている。毎日家族の来られる方にはお茶セットも用意してゆったりとくつろげるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりに合わせて、部屋の動線などに気をつけながら家具などを配置し、自室が気になる方への配慮・対応も行っている。 また見やすい場所に時計やカレンダーを設置して見当識への配慮もしている。		